



整備運営の手法

(イメージ図)

県とSPCの業務分担

(イメージ図)

項目	県	SPC	民間企業
施設管理	伊賀自動車	伊賀自動車	伊賀自動車
運行	伊賀自動車	伊賀自動車	伊賀自動車
乗客サービス	伊賀自動車	伊賀自動車	伊賀自動車
乗務員管理	伊賀自動車	伊賀自動車	伊賀自動車
乗客・売上管理	伊賀自動車	伊賀自動車	伊賀自動車

【運営権対価を20億円と想定した場合の試算】

項目	県	民間企業	備考
敷金	105億円		
県費	50億円		
運営権対価	200億円		有価証券発行 計400億円
交付金対価			
運営権対価			

議員生活28年
後継者に
バトンタッチを
致します。

市議3期、県議4期で通算28年の議員生活を勇退しました。大切な思い出を胸に、これからも前向きに元気に一市民として、愛する勝山の発展を願ってお手伝いをしていきたいと思えます。皆様本当に有難うございました。

3月6日に3月議会が閉会し、私の議員生活の最後の議会が終わりました。(任期は4月28日迄)

今議会は初日(2月21日)に、トップバッターで一般質問をさせていただき、テレビ中継されました。①国道416号線について ②地方創生・人口減少対策について ③新たな恐竜博物館の整備促進と恐竜ブランドについて 質問致しました。

また、私が委員長を務める予算決算特別委員会もテレビ中継され、多くの方々からお声をかけて頂きました。

松井拓夫の
県議会だより

福井県議会・自民党
 新生会通信

発行日:
 2019年3月20日
第65号・最終号



携帯電話のバーコードリーダーでアクセスしてみてください。

設置場所は

「現博物館の隣接地」すなわち 勝山での2館体制が望ましい

第2恐竜博物館構想が大進展！

調査報告書(案)

2月26日、私の所属している産業常任委員会で新たな恐竜博物館の整備について、県が調査報告書の案を公表しました。それによると、市民の皆様の最大の関心事の設置場所については「現博物館の隣接地」、すなわち勝山での2館体制が望ましいということです。そして「分館」として建てた方が経費も軽減し、経済効果も大きくなるとしています。

そして『運営権方式』という民間資金を活用して、県の建設負担を軽減すべきという案が示されました。

「運営権方式」について

県は報告書で提案された「運営権方式」を採用し、大幅な建設費の削減を図りたいとしています。民間企業に建設費の一部を支払ってもらい、運営権を一定期間譲渡するという仕組みで、これにより建設費用負担は3分の2と2分の1に抑えられる可能性があるということです。県は新博物館だけでなく、現博物館も一体的に運営してもらいたいとしています。研究収蔵とか研究、展示などは引き続き県で担います。企業は複数企業のグループ体を想定しています。建設の是非を6月の定例県議会で議論されますが、この恐竜博物館の結論に携われなかったことだけが心残りです。後進にはしっかりと実現に取り組んで頂きたいと願っています。

松井拓夫のひと言

＝勝山でなければならぬ理由＝

今回の報告書は分館で整備した場合、大幅な建設費の軽減になるとしています。他の市町に建設された場合、観光客は移動しなければならぬ、場所がわからない、ということが起こるのは言うまでもありません。学究的な趣が多い現在の恐竜博物館と娯楽性を加味したアミューズメント方式の分館が建設されることで、両方の館を交互に見て楽しむことができるという大きなメリットがあり、来館者が大変多くなるでしょう。またビッグ観光施設となった恐竜博物館は、勝山のみならず、福井の、そして日本の大きな観光誘客力になると思うと、夢のようにワクワク胸が膨らむのです。

「総理と桜を見る会」と「園遊会」の思い出

議長在任中の一昨年の4月に「総理と桜を見る会」・「園遊会」に招待されました。これは大変光栄なことで、議長になれば行けるというものではありません。そのうえ、両方に招待されたという事は本当に幸運なことでした。

「総理と桜を見る会」は新宿御苑で、散りかけの桜吹雪もあれば満開の桜などいろんな桜が咲き誇っていました。新宿御苑には65種もの桜があるそうです。安倍総理夫妻や菅官房長官をはじめとする多くの国会議員・招かれた方々・芸能人達と桜を楽しみました。

「園遊会」は赤坂御苑でした。天皇・皇后両陛下をはじめとする皇室の方々にお目にかかる事が出来、大変に感動しました。優しく誠実そうな両陛下、皇太子様、各殿下、妃殿下方が続かれ、その場は何とも言えない雰囲気になりました。

— 国道416号線開通 —

「加賀新保町の例大祭に参拝と、
開通お祝い懇親会」を企画しました。

勝山市と小松市を結ぶ国道416号線が昨年の9月9日に開通しました。かつて勝山と新保地区には深い

の 記 録



福井新聞ONLINEより抜粋

活動の

ながりがありました。人馬による物の行き来や結婚などの親戚関係が結ばれ、人・物・情報が往来する重要な街道でした。勝山にたくさんのお親戚がおられ、お墓参りや観光によく来ておられます。1968年に期成同盟会が設立されてから50年の悲願が実りました。

そこで昨年9月23日(日)「加賀新保町の例大祭に参拝と、開通祝い懇親会」を企画しました。30名近くの加賀新保町ゆかりの方々と一般参加の方々、車で直接にいられた方たち等、70数名の参加者で賑やかでした。小松市長の祝辞を頂き、新保町の方々からも紅白の万寿や太鼓、民謡や踊りで大変なおもてなしを頂きました。

一方で、実際に車で走ってみた人からは、石川県側の従来の道が狭い、標識がなく小松市内への行き方がわからないという声をお聞きします。せっかく整備した道路を活かすためにも今後は道幅が狭い区間の改良やわかりやすい標識の設置など、国道として利便性が向上するよう計画的な整備への支援と尽力をこの2月議会の一般質問にてお願いしました。

西川知事から「石川県の谷本知事と相談をしながら改善とソフト対策など広域的な観光ルートとしての確認・調査をしていきたい。小松空港からの誘客や災害時の代替道路としての活用などが期待される」との回答を頂きました。



天皇陛下が4月30日に譲位され、皇太子様が新天皇に即位されます。そして新しい元号の年がスタートします。戦争があった昭和、平和ではあったが災害があった平成、戦没者の慰霊の旅や被災地の訪問など、床に座られ被災者と同じ目線でお見舞いくださった天皇・皇后両陛下。皇室の重みを改めて感じると共に、新しい時代へ、新しい気持ちで踏み出していきたいでしょう。

有難うございました。

市議会議員3期・県議会議員4期務めさせて頂きました。また2月23日に75歳になりました。これを区切りとして議員生活を退かせて頂くことに致しました。47歳で当選させていただいてから早や28年間の議員生活となります。至って元気で、議会を休んだり遅刻したこともなく、自分としては精いっぱい一生懸命やっただと思っています。

今年5月から元号が変わり、新しい年の幕開けとなります。4月末で議員任期終了となり、ちょうど平成と共に議員を終えるという事になります。皆様にはご指導・ご支援を頂きまして本当に有難うございました。

昭和・平成と過ごしてきた日々、私なりに一生懸命生きてきました。

5人兄弟の末っ子で、早くに母を亡くして母の顔も知らずに祖母に育てられた私は、体も小さくてすぐく子どもっぽかったようです。勉強が苦手で、遊んではかり。教師だった兄に叱られてばかりいました。しかし亡き父の姿を見てきたからか政治に関心を持ち、ここまで議員を務めさせて頂いた事は本当に幸せなことであったと思っています。

振り返れば時代は大きく変わりました。「鬼ごっこ」や「缶けり」をしていた私たちの子どもの頃から、今は子どもも「パソコン」や「スマホ」をスイスイ操る時代になりました。子どもの頃、農家に育った私はよく手伝わされましたが、牛馬に代わって機械、更にA-1化で無人で機械が田を耕す実験をしているのをテレビで見ました。車は自動運転、労働力はロボット化が進んでいくでしょう。

これからどんな時代になるか予想もつきませんが、私も心機一転新しい生活を楽しんでいこうと思います。グラウンドゴルフや書道などに挑戦し、明るく元気に毎日を送るために、「出かける・見る・聞く・交わる」積極的な生活をして、元気に愛するふるさとのお手伝いをしていきたいと思っています。

「松井拓夫の県議会だより」は今回をもって最終号となります。愛読有難うございました。

松井拓夫の一般質問より

(要旨のみ)

問一 国道416号について

① 国道416号の勝山市と石川県小松市を結ぶ区間の開通後どのような効果があったのか、また、今後どのような効果を期待しているのか、知事の所見を伺う。

国道416号については、勝山市野向から小松市新保町に至る交通不能区間を解消するた

め、福井・石川両県が連携し平成18年度に事業化をし、総事業費約50億円を投入し13年の歳月をかけ昨年国体前9月9日に開通したところです。

今回、この6・3kmの峠越えの県境道路が開通することにより、かつては、人や物が盛んに往来してきた古い道が車で通行できるようになり、新たな観

光ルートとしての活用や、近隣の国道157号の代替道路としての役割が見込まれます。

実際の整備効果については、さまざま効果がありますが本格的な観光シーズンを今年初めて迎えますので、全体として、確認、調査してまいります。

なおご質問がございましたら両県を結ぶこの道路のさらなる改善については石川県の谷本知事とまた相談しながら改善とソフト対策など広域的な観光ルートとして一層の利用促進になるよう努めてまいります。

問二 恐竜博物館の整備促進と恐竜ブランドについて

① 今回、県が示した「運営権方式」はこれまでに博物館で採用している例がない手法であるとのことだが、恐竜博物館においてこの方式によることのメリットを伺う。

この運営権方式を採用することにより、県の業務を公共性の高い業務に限定をしたうえで、財政負担があまり高くなるらないように軽減をし、利用サービスの向上や地域の賑わいという、民間的なビジネス機会を創り出すメリットを両様考えた方式といっています。

恐竜博物館の場合には、県は収蔵とか研究、展示など、普通の博物館の基本となる業務に特化をしたうえで、その他の業

務の一部を特別の目的会社に売却することにより、運営整備費などの県負担を軽減するといふ、民間に新たなビジネス機会を提供できる方式です。

民間企業の側では、そのノウハウを活かして、館内サービスや県外での宣伝プロモーション、あるいは旅行商品の造成など、この特別会社SPCといいますが、自主的な事業により、恐竜博物館に來られた来館者の満足度全体として向上をし、本県への誘客拡大にもつなげるという考え方です。

この方式で事業を進める場合には、博物館の隣接地に整備すべきと考えますが、更に円滑な運営を図るためには、地域のビジネスチャンスを広げるといふ連携ですね、地元事業者の連携が不可欠ですので、ご地元勝

山市との協調、支援が何より、更に重要と考えます。

② 現在、調査機関に行わせている詰め作業では、どういう内容を検討させているのか、伺う。

運営権方式につきましては、これまで日本の博物館では採用した例がありませんので、事業を進める場合に必要な手続きや開館までの具体的な手順などを整理させています。

また、このSPC方式で博物館を運営する場合には、来館者へのサービス水準を確保する中で博物館としての大事な公共性を保たなければなりません。また、県とこの特別会社との業務が円滑に行われるための調整方法等についても検討が必要ですので、今これを検討させているところです。

問一 地方創生・人口減少対策について

① 移住促進策の現状を伺うとともに、新年度から取り組む新たな移住促進策について伺う。

移住促進策ですが、全国で唯一、県と市町が一体となって、平成27年に「移住・定住促進機構」を設置し、都市部圏に向けたきめ細やかな施策を展開してきました。

その結果、県外から移住した昨年度の「新しいふくい人」は686名にのぼっており、特に、Uターン者は機構設置後3年間で256名と約2倍に増加しています。

新年度は、U・ターンをさらに強力に進めるため、国の制度を使って東京圏から県内に移住して企業に就職あるいは創業する人々に対し移住経費を支援して、移住を積極的に後押しをします。具体的には移住者の方に100万円、あるいは創業者には300万円を支給する制度です。

それから、東京と福井のUターンセンターというのがありますが、新たに「人材開拓員」を配置して、移住する人材を直接入力するという活動を展開します。「待っている」の姿勢ではなく自ら積極的に出向いて企業や地域が本当に必要とする人材を呼び込み、「新しいふくい人」今600人台ですが、千人台の早期実現を目指したい

と考えます。

② これまで以上に大胆に人口減少対策に取り組むべきと考えますが、知事の所見を伺う。

福井県では、戦略に基づき、3人っ子応援プロジェクトや結婚については「めいわくありがた縁結び」、福井Uターンセンターの設置など、市町とともに様々な対策を実施してきた結果、最新の推計では、2040年の将来の推計ですが、本県人口は64万7千人ということで、5年前に推計した数字と比べますと、1・4万人改善するなど、成果が現れております。

こうした良い流れをより確実なものとするため、これまで積み重ねてきた県独自の対策をさらに強化するとともに、企業の人手不足や外国人労働者の受入拡大等の新たな課題への対応が必要で

人を呼び込むには、地方にもやりがいある仕事や企業、こうしたものをつくりだし、安心して生活できる環境を高めることが大事です。来年度の戦略改訂にあたり、この中山間地域を中心に集落機能維持、また若者の力による活性化など、福井県の地域実態に応じた対策を細かく拡充するとともに、自然減対策・社会減対策について、地方としてできるあらゆる手段を講じながら、また、国への必要な要請をし、この人口問題に立ち向かってまいります。